

平成27年度 学校保健概要調査

1 発育の状況

年齢別身長・体重・座高の平均値（全国と岡山県との比較）

○：全国平均より上 □：全国平均と同じ 無印：全国平均より下

区 分		身 長 cm		体 重 kg		座 高 cm		
		全 国	県	全 国	県	全 国	県	
男	幼稚園	5歳	110.4	110.3	18.9	18.7	61.8	61.9
		6歳	116.5	115.8	21.3	21.0	64.8	64.5
	小学校	7歳	122.5	122.0	23.9	23.7	67.6	67.4
		8歳	128.1	128.0	26.9	27.0	70.2	70.2
		9歳	133.5	133.1	30.4	30.1	72.6	72.6
		10歳	138.9	138.3	34.0	33.4	74.9	74.9
		11歳	145.2	144.9	38.2	38.0	77.7	77.6
	中学校	12歳	152.6	152.5	43.9	43.3	81.4	81.1
		13歳	159.8	159.4	48.8	48.8	85.1	84.9
		14歳	165.1	164.6	53.9	53.4	88.2	87.9
	高等学校	15歳	168.3	167.6	59.0	57.8	90.4	90.3
		16歳	169.8	168.6	60.6	59.8	91.4	91.2
		17歳	170.7	169.9	62.5	62.1	92.1	92.0
	女	幼稚園	5歳	109.4	109.3	18.5	18.3	61.3
6歳			115.5	115.0	20.8	20.8	64.4	64.2
小学校		7歳	121.5	121.1	23.4	23.5	67.2	67.1
		8歳	127.3	127.6	26.4	26.4	69.9	70.1
		9歳	133.4	132.8	29.7	29.8	72.7	72.4
		10歳	140.1	140.1	33.9	33.9	75.8	75.8
		11歳	146.7	146.5	38.8	38.7	79.2	79.1
中学校		12歳	151.8	151.4	43.6	43.1	82.1	81.8
		13歳	154.9	154.0	47.3	46.1	83.9	83.4
		14歳	156.5	156.0	49.9	49.3	84.9	84.5
高等学校		15歳	157.1	156.2	51.5	50.9	85.5	85.4
		16歳	157.6	156.6	52.6	51.8	85.7	85.5
		17歳	157.9	157.6	53.0	53.0	85.9	86.0

(注) 年齢は、平成27年4月1日現在の満年齢である。

○全国と比較すると、男子においては5歳の座高、8歳の体重で全国平均を上回っている。女子においては7歳の体重、8歳の身長・座高、9歳の体重、17歳の座高で全国平均を上回っている。

上記は文部科学省の平成27年度学校保健統計調査（抽出調査）による。

- 調査実施校
幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校
岡山県内学校（園） 971校（園）中 165校（園）抽出
岡山県在学（園）者 221,400人中 発育状態調査 13,532人（6.1%）抽出
- 調査期間
平成27年4月から6月

2 学校種別疾病異常の状況

(注) 被患率とは、定期健康診断において医師等により、疾病異常と診断された者の割合

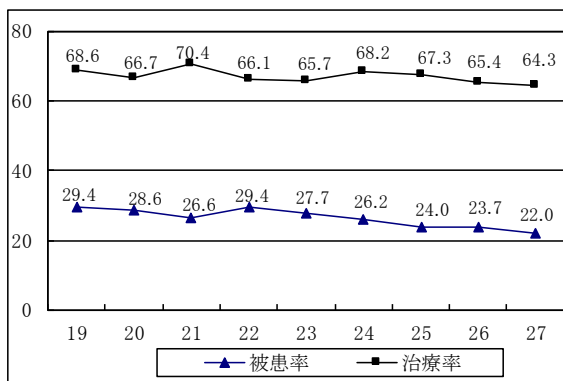
被患率	学校種		幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
				%		%		%		%
20%以上30%未満		むし歯		22.0	むし歯	25.7	裸眼視力1.0未満	24.1	矯正視力1.0未満	24.5
					裸眼視力1.0未満	20.7	矯正視力1.0未満	20.9		
10%以上20%未満		裸眼視力1.0未満	13.6	鼻咽喉頭疾患	16.5	むし歯	16.0	裸眼視力1.0未満	19.6	
		鼻咽喉頭疾患	11.6			鼻咽喉頭疾患	12.6	むし歯	18.8	
1%以上 10%未満	8~10%							肥満傾向	9.4	
	6~8%	耳疾患	6.3	その他の歯の疾患及び 口腔の疾病異常	7.3	肥満傾向	7.9			
				ぜん息	7.2					
				肥満傾向	6.8					
				矯正視力1.0未満	6.7					
				耳疾患	6.3					
4~6%	その他の眼疾患	4.8	その他の眼疾患	5.9	その他の眼疾患	5.9	その他の眼疾患	5.5		
					ぜん息	5.6	ぜん息	4.9		
					耳疾患	4.8	歯周疾患(Gのみ)	4.6		
					歯周疾患(Gのみ)	4.4				
					その他の歯の疾患及び 口腔の疾病異常	4.1				
2~4%	ぜん息	3.2	歯列・咬合・顎関節の 異常	2.8	痩身傾向	3.7	歯列・咬合・顎関節 の異常	2.7		
			皮膚疾患	2.3	歯列・咬合・顎関節の 異常	2.8	痩身傾向	2.6		
			歯周疾患(Gのみ)	2.3						
1~2%	皮膚疾患	1.8	痩身傾向	1.6	皮膚疾患	1.8	耳疾患	1.9		
			心臓の疾患	1.4	心臓の疾患	1.4	心臓の疾患	1.4		
			聴力異常	1.2	腎臓疾患	1.2	皮膚疾患	1.3		
1%未満	0.5~1%	矯正視力1.0未満	0.9	せき柱側わん	0.5	聴力異常	0.8	聴力異常	0.8	
		肥満傾向	0.9	腎臓疾患	0.5	せき柱側わん	0.6	腎臓疾患	0.8	
		心臓の疾患	0.8					その他の歯の疾患及 び口腔の疾病異常	0.6	
		聴力異常	0.7							
	0.1~ 0.5%	感染性眼疾患	0.3	胸郭異常	0.1	貧血	0.2	せき柱側わん	0.3	
		歯周疾患(Gのみ)	0.3	栄養不良	0.1	胸郭異常	0.1	貧血	0.2	
		痩身傾向	0.1					胸郭異常	0.1	
		せき柱側わん	0.1							
		腎臓疾患	0.1							
		貧血	0.1							
0.1%未満	十二指腸虫(釣虫)		貧血		栄養不良		栄養不良			
			胸郭異常		感染性眼疾患		感染性眼疾患			

○疾病異常を被患率別にみると、幼稚園、小学校においては「むし歯」が最も高く、次いで「裸眼視力1.0未満」「鼻咽喉頭疾患」の順となっている。中学校においては、「裸眼視力1.0未満」、高等学校においては、「矯正視力1.0未満」がそれぞれ最も高く、次いで中学校においては「矯正視力1.0未満」「むし歯」、高等学校においては「裸眼視力1.0未満」「むし歯」がそれぞれ高くなっている。

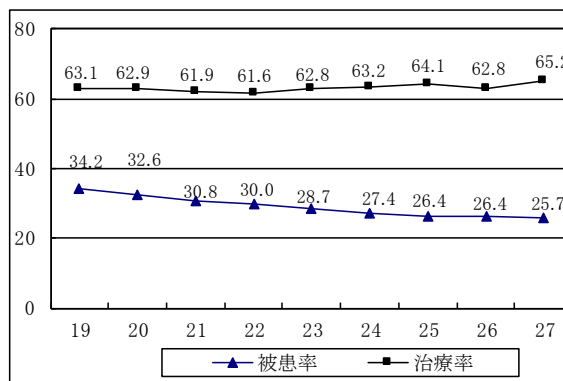
3 むし歯の状況

①治療していないむし歯（乳歯・永久歯）のある者の割合及び治療率の推移

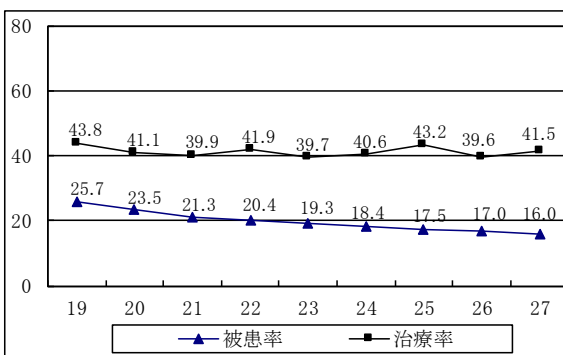
(%) 幼稚園



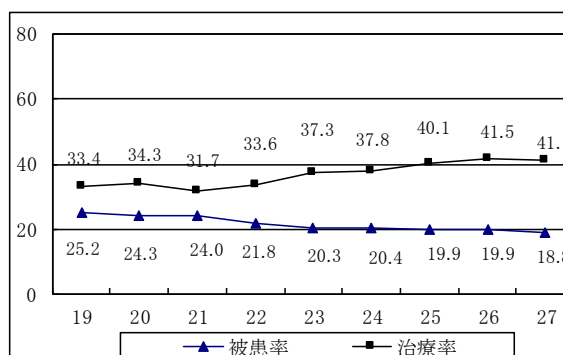
(%) 小学校



(%) 中学校



(%) 高等学校

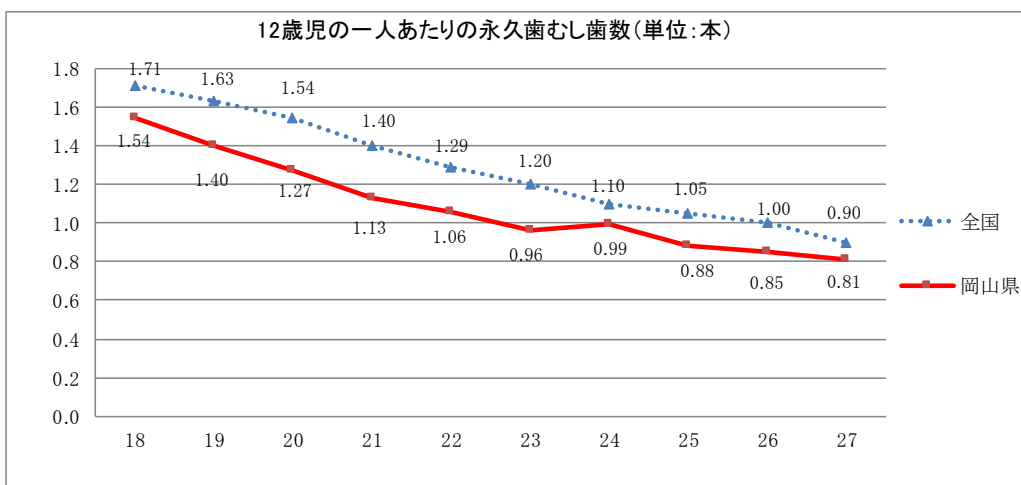


(注) 被患率とは、定期の歯科検診時における未処置歯保有者の割合。

(注) 治療率とは、定期の歯科検診後、むし歯の治療勧告を受けた者が、その年度の12月1日までに治療を受けた割合。

②12歳児（中学1年生）の一人あたりの永久歯むし歯数（DMF歯数）の推移

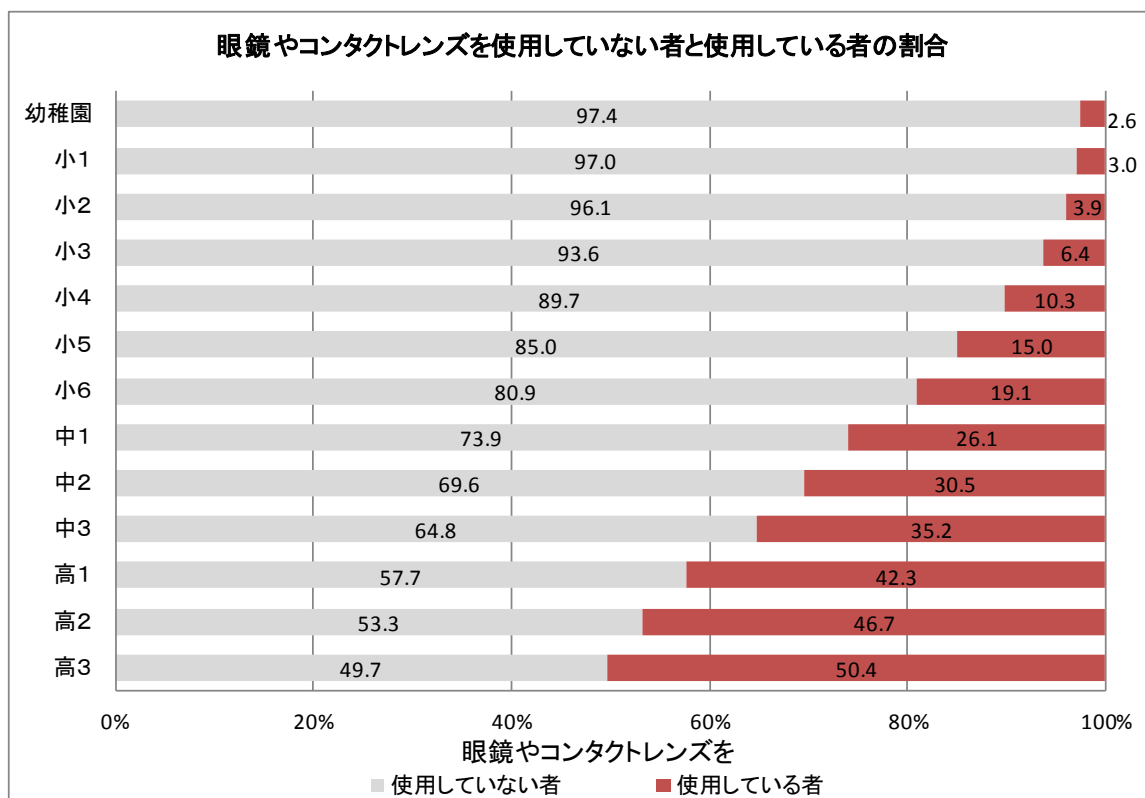
※DMFとは・・・ D（未処置歯）
M（むし歯による喪失歯）
F（処置歯）



(注) 全国の数値は文部科学省の学校保健統計調査による。

○むし歯の被患率は、全学校種において低下傾向にある。治療率は、中学校及び高等学校において4割程度にとどまっている。12歳児の永久歯むし歯数(DMF歯数)は、平成23年度から1本未満を維持している。

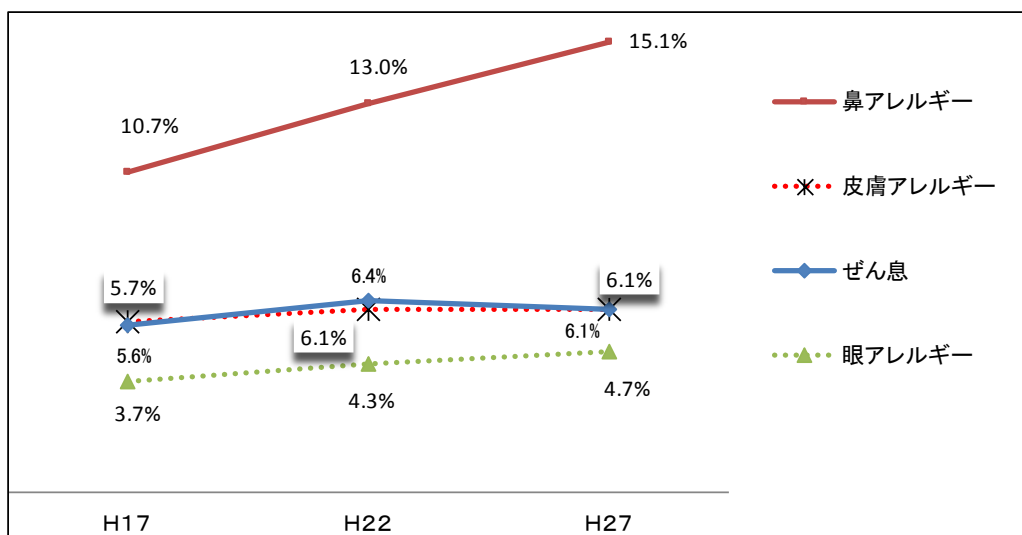
4 視力の状況



- 学年が上がるにつれ、眼鏡またはコンタクトレンズを使用する児童生徒が増加する。
- 高等学校3年生になると、ほぼ半数の生徒が、眼鏡又はコンタクトレンズを使用している。

5 アレルギー疾患・ぜん息の状況

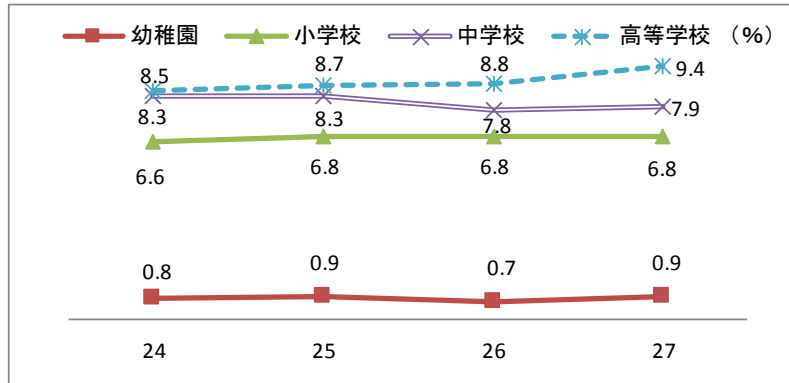
次の数値は、校医の診断及び保護者の保健調査票等から、学校が把握したアレルギー疾患を持つ児童生徒の割合である。



- 10年前と比較すると、アレルギー疾患を持つ児童生徒が増加している。特に鼻アレルギーの増加は著しい。

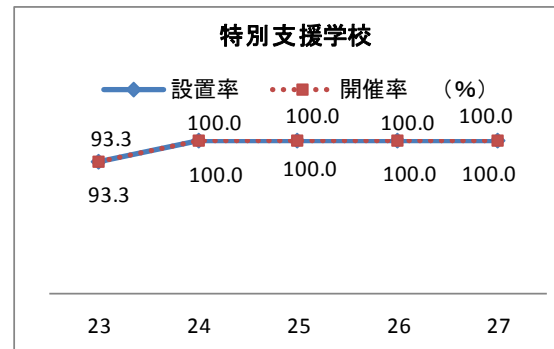
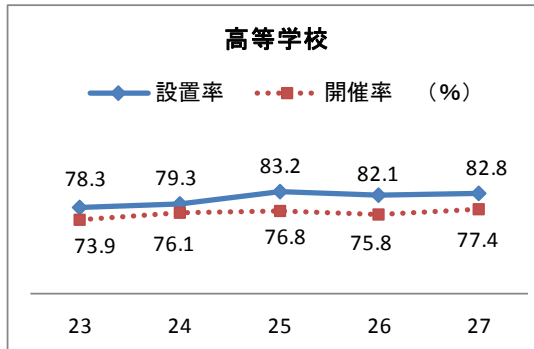
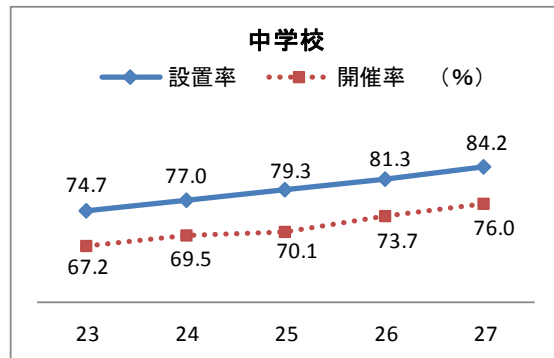
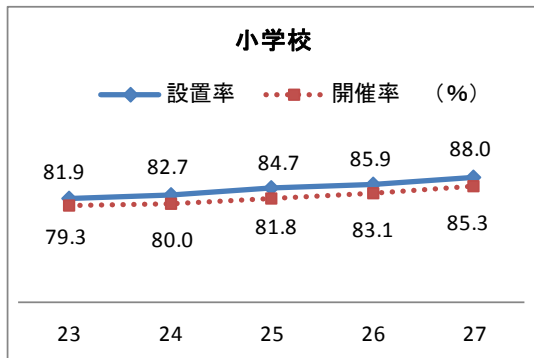
6 肥満の状況

肥満については、「性別・年齢別・身長別標準体重」から肥満度を算出し、肥満度20%以上の者を肥満傾向児としている。



○高等学校以外の学校種における肥満の発現率が前年度とほぼ水準で推移しているのと比べて、高等学校においては増加が見られた。

7 学校保健委員会の設置・開催状況



○高等学校を除くすべての学校種別において、設置率と開催率が増加傾向にある。
特別支援学校においては、設置率・開催率ともに100%である。

◇学校保健委員会とは

校長・養護教諭等教職員、保護者代表・児童生徒代表・学校医等・地域関係者等を委員とし、各学校における健康に関する課題を協議し、子どもたちの健康づくりを推進するための組織である。主に保健主事等が運営にあたる。

第7次岡山県保健医療計画では、学校保健委員会の設置率を平成29年度までに、小学校で100%、中学校・高等学校で100%とすることを目標としている。